

IPJ 10 周年記念シンポジウム

DNA 型鑑定は間違いを犯すのか

～佐賀県警科捜研の鑑定不正を契機として～

2026 年 10 月 31 日（土） 13：30—17：00

DNA 型鑑定は、犯罪の捜査、裁判での有罪立証のために日常的に使用されており、一般に信頼性の高い証拠とみなされています。しかし、2025 年 9 月には、佐賀県警察科学捜査研究所における鑑定不正が公にされ、その信頼性は大きく崩れました。

8 年以上見過ごされたさまざまな鑑定不正の深刻さは、その後の情報開示と検証の不十分さとあいまって、現在も波紋を広げています。DNA 型鑑定は無罪の決定的な証拠となりうるにもかかわらず、鑑定試料の紛失、それをごまかすための記録の書き換えなども行われていました。こうした鑑定不正は、えん罪を引き起こしかねないものです。

この問題は、一つの科捜研、一人の職員の落ち度として矮小化されるべきではなく、システム全体の問題として受け止める必要があります。今回の不正発覚をきっかけに、日本の DNA 型鑑定の在り方について、改めて問い直すことが本シンポジウムの目的です。

プログラム

開会の挨拶

石塚章夫（IPJ 理事長・埼玉弁護士会）

基調報告「佐賀県警科捜研の不正事件と法改正の提言」

富永洋一（IPJ メンバー・佐賀県弁護士会）

基調報告「DNA 型鑑定と鑑定不正」

平岡義博（IPJ メンバー・立命館大学衣笠総合研究機構上席研究員）

パネルディスカッション

富永洋一・平岡義博・西岡千史（フリージャーナリスト）・徳永光（IPJ メンバー・獨協大学教授）

IPJ 支援事件について

IPJ 学生ボランティア

半田孝太（クリスさんを支援する会代表）

閉会の挨拶

笹倉香奈（IPJ 事務局長・甲南大学教授）

会場

ビジョンセンター東京八重洲 9 階 905 室



参加申込み



<https://forms.gle/URHZ8Xzf9xAtovxX9>

- 参加費無料
- 設営等準備のため、上記 QR コードより、なるべく事前にご登録ください。

【主催】 一般財団法人イノセンス・プロジェクト・ジャパン（IPJ）

